

福地三則の物語

73歳

作成日: 2026/2/25

あなたの物語

～ 福地三則さんの人生～

私が生まれたのは、戦後7年が経過した時期で、日本全体がまだ貧しい状況でした。私は1952年5月10日に、鹿児島県薩摩郡宮之城町の白男川村という人口約100人の小さな村で生まれました。

私は霧島山脈の裏側の麓にある山中で生まれましたが、家が火事になってしまい、家族が避難した先の川内ダム温泉宿で私が誕生しました。

私の家族は祖母、父、母、兄、姉の6人でしたが、2歳ごろに祖母が亡くなりました。その時のことをうっすらと覚えています。

学生時代の思い出として、早稲田大学に在籍していた際にスペインでの10カ月間の遊学経験が挙げられます。この時が私にとって初めての海外への一人旅であり、若かったからこそできた貴重な体験だったと感じています。

スペインから帰ってきてすぐに、語学力を生かせるということで、近畿日本ツーリスト海外旅行営業本部に就職しました。最初の勤務地は名古屋駅の近鉄ビルの中でした。

人生における大きな決断として、私は42歳でCAIメディアという教育ソフト会社を創業したことを挙げます。この創業にあたっては、浜松の赤ちょうちんの店のお客さんたちの温かい支援を受け、創業資金を調達することができました。

仕事でやりがいを感じた瞬間は、スマホアプリにおいてアップストアの月間ダウンロード数で日本一を達成したことです。特に、6つのタイトルが日本一となったことは大きな成果でした。しかし、2001年にリリースした英会話ロボでは売上が振るわず、大きな負債を抱える結果となりました。このような成功と失敗の両方を経験することで、仕事に対するやりがいや学びを深めることができました。

人生で出会った大切な人は、浜松のラーメン屋の店主です。私が28歳の頃、近畿日本ツーリストに勤めていた時期に、その方と出会いました。

私の趣味はカラオケで歌うことですが、最近は声がうまく出ないため、どちらかというと聞き役に回っています。

私の人生における失敗や試練の一例として、iPhoneアプリがApp Storeで日本一のダウンロード数を達成したことがあります。しかし、その成功とは裏腹に、英会話ロボットを開発した際に大きな負債を抱えることになりました。

私は、商品を良いものとして作るだけでは不十分であり、売上計画や販売ルートの営業をしっかりと行う必要があるということを学びました。商売は、最終的には売り上げが重要であるということを実感しました。

現在、私が大切にしていることは、人間関係の重要性です。この実感を基に、私は友情をより一層大切にしようと考えています。

家族や次の世代に伝えたいことは、これまで迷惑をかけてしまったこともあったかもしれませんが、心からの感謝の気持ちを伝えたいということです。本当にありがとうございますと、感謝の意を表したいと思っています。

私にとって、今が一番幸せな時だと感じています。好きな事に時間を使えるから。

未来へのメッセージとして、私は子供たちに夢を持ち続けてほしいと願っています。たとえ失敗を経験したとしても、その夢を追いかけることが何よりも重要であると考えています。また、自分自身に対しては、まだまだ多くのこと、特にAIを生かした学習に挑戦したいと思っています。

インタビュー記録

Q1. あなたの生まれた時代はどんな時代でしたか？

私が生まれたのは、戦後7年が経過した時期で、日本全体がまだ貧しい状況でした。私は1952年5月10日に、鹿児島県薩摩郡宮之城町の白男川村という人口約100人の小さな村で生まれました。

Q2. 生まれた場所と、幼い頃の思い出は？

私は霧島山脈の裏側の麓にある山中で生まれましたが、家が火事になってしまい、家族が避難した先の川内ダム温泉宿で私が誕生しました。

Q3. 家族について教えてください

私の家族は祖母、父、母、兄、姉の6人でしたが、2歳ごろに祖母が亡くなりました。その時のことをうっすらと覚えています。

Q4. 学生時代の思い出は？

学生時代の思い出として、早稲田大学に在籍していた際にスペインでの10カ月間の遊学経験が挙げられます。この時が私にとって初めての海外への一人旅であり、若かったからこそできた貴重な体験だったと感じています。

Q5. 最初の職場での経験は？

スペインから帰ってきてすぐに、語学力を生かせるということで、近畿日本ツーリスト海外旅行営業本部に就職しました。最初の勤務地は名古屋駅の近鉄ビルの中でした。

Q6. 人生での大きな決断は？

人生における大きな決断として、私は42歳でCAIメディアという教育ソフト会社を創業したことを挙げます。この創業にあたっては、浜松の赤ちょうちんの店のお客さんたちの温かい支援を受け、創業資金を調達することができました。

Q7. 仕事でやりがいを感じたことは？

仕事でやりがいを感じた瞬間は、スマホアプリにおいてアップストアの月間ダウンロード数で日本一を達成したことです。特に、6つのタイトルが日本一となったことは大きな成果でした。しかし、2001年にリリースした英会話ロボでは売上が振るわず、大きな負債を抱える結果となりました。このような成功と失敗の両方を経験することで、仕事に対するやりがいや学びを深めることができました。

Q8. 人生で出会った大切な人は？

人生で出会った大切な人は、浜松のラーメン屋の店主です。私が28歳の頃、近畿日本ツーリストに勤めていた時期に、その方と出会いました。

Q9. 趣味や好きなことは？

私の趣味はカラオケで歌うことですが、最近は声がうまく出ないため、どちらかという聞き役に回っています。

Q10. 人生での失敗や試練は？

私の人生における失敗や試練の一例として、iPhoneアプリがApp Storeで日本一のダウンロード数を達成したことがあります。しかし、その成功とは裏腹に、英会話ロボットを開発した際に大きな負債を抱えることになりました。

Q11. それらからどう学びましたか？

私は、商品を良いものとして作るだけでは不十分であり、売上計画や販売ルートの営業をしっかりと行う必要があるということを学びました。商売は、最終的には売り上げが重要であるということを実感しました。

Q12. 今、大切にしていることは？

現在、私が大切にしていることは、人間関係の重要性です。この実感を基に、私は友情をより一層大切にしようと考えています。

Q13. 家族や後世代に伝えたいことは？

家族や次の世代に伝えたいことは、これまで迷惑をかけてしまったこともあったかもしれませんが、心からの感謝の気持ちを伝えたいということです。本当にありがとうございます、感謝の意を表したいと思っています。

Q14. 人生で一番幸せだった時は？

私にとって、今が一番幸せな時だと感じています。好きな事に時間を使えるから。

Q15. 未来へのメッセージは？

未来へのメッセージとして、私は子供たちに夢を持ち続けてほしいと願っています。たとえ失敗を経験したとしても、その夢を追いかけることが何よりも重要であると考えています。また、自分自身に対しては、まだまだ多くのこと、特にAIを生かした学習に挑戦したいと思っています。

人生年表

1952年5月 鹿児島県薩摩郡宮之城町で誕生

家が火事になって家族が避難した温泉宿で私が生まれた。私は6か月位の時にその温泉で、母が目を離れたすきに湯船でおぼれて、湯の底から見上げた湯の上面がキラキラと光り輝いていたのを、今でも覚えている。

1958年4月 阿久根小学校に入学

校庭の桜の木の下で写真を撮った記憶がある。

1994年10月 CAIメディア共同開発を起業

学塾の講師をしていたが、塾の生徒がファミコンゲームにはまっているのを見て、教育ソフトもゲームに負けないくらいのもにしなければいけないと、教育ソフト会社を浜松で作った。

2002年10月 英会話ロボットを発売した

韓国の企業に頼んで製造を中国で行ったが、途中で中国の会社が無くなって、大きな負債を負った。

2016年8月 心筋梗塞を発症した

病院に入院してる最中 コロナが流行ってきて病院を出なければいけなかった

思い出の写真



2022年 スペ研飲み会 東京駅地下



高齢者見守り対話ロボット みまくん



阿久根中 古希同窓会 2022年



阿久根中 古希同窓会02

